

平成 28・29 年度 第 4 回 神奈川県産業教育審議会概要
平成 29 年 10 月 24 日 (火) 14:00~16:00 神奈川県庁新庁舎 5B 会議室

【出席者】◎河野 隆二、○角田 浩子、二見 稔、馬鳥 敦、松本 里香、目迫 公雄、
廣瀬 道、菊地原 宏明、後藤 宗治、熊坂 和也、奥田 裕之

1 事務連絡（事務局）

- ◇資料確認
- ◇定数確認
- ◇会議の公開について

2 神奈川県教育委員会あいさつ（岡野高校教育課長）

- ・ 本日は、来年度早々の「最終報告」に向けて審議いただく。よろしくお願ひしたい。
- ・ 8 月 4 日、河野会長から教育長へ「中間まとめ」を手交いただき、概要説明とこれからの専門学科について懇談いただいた。
- ・ 9 月の県議会第 3 回定例会の代表質問において、今後の専門教育を県立高校改革の中でどう推進していくか質問があり、教育長から「県立高校改革Ⅱ期の実施計画に向けて、現在県産業教育審議会等の場で専門学科の教育内容の充実を検討しており、Ⅱ期計画の中で産業界のニーズや地域バランスを勘案した必要な学科改編等を実施していく予定である」という答弁をしている。
- ・ 現在取組中の県立高校改革Ⅰ期計画により、平成 30 年度に「三浦臨海高校」と「平塚農業高校初声分校」が再編・統合して新しい高校となり、校名検討委員会での検討の結果、新校名が「三浦初声高校」となった。
- ・ 次期学習指導要領の検討が現在行われており、今年度中に高等学校の学習指導要領が改訂され、平成 34 年度から年次進行で実施される予定である。審議いただいている報告の中に、次期学習指導要領の内容を織り込み、適宜資料提供させていただきたい。
- ・ 第 20 回神奈川県産業教育フェアを、11 月 11 日（土）、12 日（日）、横浜そごう 9 階の新都市ホールにて実施する。専門高校の生徒の発表の場として充実したものとなるように、また第 20 回という節目でもあり、熱心に準備を進めているので、是非御見学いただきたい。
- ・ 今後の専門学科の活性化を図るためにも、本日も皆様に幅広い見地から忌憚のないご意見をいただきたい。

3 会長あいさつ（河野会長）

- ・ 本日は、審議題である「県立高校改革実施計画に関わる専門高校のあり方」についての事務局からの最終報告案について、是非熱心な審議をお願いしたい。
- ・ 今回の審議では、中学生、保護者、専門高校 1 年生等を実施したアンケートの集計結果についても報告がある。それをもとに専門高校の課題発掘、改善に向けた方策も考えていきたい。
- ・ 最終報告案は、今後の専門高校の方向性を示すものとなり、大きな役割を持っているので、これからの専門高校の活性化を促すよう審議を進めていきたい。忌憚のない意見をいただき、実りある審議会としたい。

4 新委員紹介（河野会長）

◇菊地原委員の紹介（前回公務により欠席）

5 第4回専門部会 報告（後藤委員）

- ・ 専門高校1年生のアンケート結果と平成28年度専門高校3年生の卒業時アンケートの結果について、事務局から説明があった。今年度入学した1年生のアンケートに関しては、結果を踏まえ、中学生が進路を考える上で効果的なPR方法等について話し合われた。卒業した3年生のアンケートについては、3年間を振り返った満足度等を捉える内容になっており、どういう点を補っていったらいいのか等について話し合われた。
- ・ 各委員からは、最終報告に向けて産業界のニーズを読み取っていくことの必要性や、社会へのメッセージを織り込んだものにすべき等の意見が出された。
- ・ 全体会終了後、各学科毎に分かれ、最終報告に向けて各専門学科のあり方について検討を行った。

6 神奈川県の特設専門高校に関するアンケート調査結果について（事務局）

- ・ 資料5の1ページにアンケート調査の概要を記載している。専門高校のアンケートは、産業系専門学科を設置する学校の1年生全生徒に対して実施した。中学3年生のアンケートは、県公立中学校長会から推薦を受けた各市町村の中学校51校の任意の1クラスを抽出し実施しているが、調査期間が9月から10月までであり、まだ数校調査中なので、集計の途中経過として確認願いたい。併せて、中学3年生の保護者、中学校に対しても、アンケート調査を実施している。
- ・ 2ページ以降に、専門高校1年生、中学3年生、中学3年生の保護者、中学校それぞれについて、いずれも設問、集計結果の順に示している。
- ・ 資料6は、今年3月に卒業した専門高校3年生を対象とした高校在学中の満足度についての調査結果である。特に専門学科に関する部分を抽出して示している。併せて確認いただきたい。

7 最終報告（案）説明（事務局）

- ・ 資料7は、8月4日、河野会長から教育長に手交いただいた中間まとめである。電子データで配付しているが、本日の審議での御参考として用意した。
- ・ 資料8は、本日の審議の中心内容となる「県立高校改革実施計画に係る専門高校のあり方報告（案）」である。
- ・ 1ページに、報告書の流れを記載しているので、後ほど確認願いたい。
- ・ 2ページから、中間まとめでは箇条書きにしていた内容を文章形式にし、中間まとめ以降の様々なデータや、国、県等の施策等を反映している。
- ・ 4ページ、5ページには、中学生、保護者の意見等についての記載が足りないとの意見等も踏まえ、先述のアンケートの結果を様々な視点から検証し、記載することを考えている。
- ・ 4ページでは、来年3月告示予定の次期学習指導要領の概要が次回審議会までには見えてくると思われるので、次期学習指導要領における専門学科等の教育内容について、記載を検討していきたい。

- ・ 8 ページに、「Ⅰ 本県の専門高校に求められる役割」のまとめとして、「4 神奈川県
の専門高校の教育内容の方向性」の記載を追加した。これは中間まとめにはなかつたものである。
- ・ 10 ページにも、専門高校の学習機会のあり方について、次期学習指導要領を踏まえた内容
の記載を考えている。
- ・ 11 ページに、「Ⅱ 本県の専門高校における学習機会のあり方」のまとめとして、「3
本県の専門高校における学習機会のあり方」の記載を追加した。これも中間まとめにはなかつたものである。
- ・ 12 ページ以降の「Ⅲ 本県のこれからの専門高校のあり方」では、学科毎に、中間まとめ
で示した現状・課題や今後の方向性等を、文章形式で示している。専門部会において各学科
で議論を重ねた内容を踏まえた記載になっている。
- ・ 18 ページに、今後の人材育成のあり方について「(3) 今後の教員の人材育成のあり方」
の記載を追加した。これも中間まとめにはなかつたものである。

8 審議

(1) 本県の専門高校に求められる役割について

(目迫委員)

- ・ 4 ページに記載がある「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」とは何か。神奈川
県としては、どの学校がこれに取り組んでいるのか。
- ・ 専門高校については、中学校やその保護者への周知だけでなく、小学校や幼稚園・保育園等
のようなもっと早い時期に見たり聞いたりする機会をつくる必要があるのではないか。地域の
小学校に高校生が出向き、ものづくりの出前PRを行ったり子どもたちに接する機会があつ
たりすると、小さい頃からものづくりに興味を持たせることができるのではないかと。

(事務局)

- ・ 「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」は、文部科学省が学校を指定して実施し
ている事業であり、事業内容については4 ページの四角囲みの中に記載がある。
- ・ 神奈川県からも、専門高校から立候補を受け、平成 27、28 年度応募しているが、残念なが
ら指定されなかった。枠が 10 校程度に対し 50 校程度の応募があり、約 5 倍の競争率の中、
指定に至らなかった状況である。本事業が継続される限り、引き続き応募を考えていきたい。

(岡野高校教育課長)

- ・ なかなかハードルが高く、我々としては毎年指定されることを目指しているが、残念ながら
苦戦しているところである。
- ・ 小学校等へのPRについては、これまでも各学校で近隣の小学校等を対象に取り組んできて
いる例も多く、例えば工業高校ではおもちゃの修理をしたり、農業高校では農作物の植え付
けや育成の体験をさせたり、商業高校では、平塚商業高校を平塚市の縮小版に見立てて、校
内で働いてお金を稼いだり、税金を納めたり等といった体験を、小学生対象に行ったりして
いる。各学校で工夫した取組をしており、それが結果的にPRにもつながっていると思う。

(二見委員)

- ・ 4 ページの次期学習指導要領改定に伴う専門高校の教育内容の充実に関し、次期学習指導要
領でどのような見直しがされるのか。

(事務局)

- ・次期学習指導要領の骨子は、中央教育審議会での議論がベースになる。我々もある程度リサーチしているが、専門高校の各教科にどのような科目が置かれるか等の科目構成や教育内容の具体については見えていない。ただし、高校教育全体の流れの中で専門教育の流れも進んでいくので、その部分についてはしっかりと方向性を見極め、最終報告に反映していく。

(二見委員)

- ・例えば、国際性を重視するなら専門学科でも英語教育が強化されたり、実践を重視するなら実習が強化されたりというような、メリハリをつける部分が出てくるのではないか。そういう傾向やトレンド等のような情報はないか。

(事務局)

- ・中央教育審議会の産業教育部会のまとめについては、我々指導主事も目を通し、専門学科それぞれの特徴について方向性を捉えている。例えば、農業では、グローバル化を踏まえ、国際競争に勝てる農業、農産物輸出の手順、グローバルギャップに関する教育内容を取り入れる方向性がある。商業では、観光人材の育成が求められていることを踏まえ、そのための方向性が示されてくるかもしれない。
- ・専門学科それぞれに関して、文部科学省の教科調査官から示されている、ある程度の方向性について記載している。

(菊地原委員)

- ・学習指導要領の改訂についてはすでに答申が示されており、社会に開かれた教育課程を通して、何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶかということが柱となることについては、小中高共通である。
- ・かながわ教育ビジョンのかながわ人づくり推進ネットワークの副幹事を務めている。先日、中央農業高校において、県立高校生学習活動コンソーシアムモデル校としての、地域の小学校、中学校、養護学校との連携や、農家や企業との連携等の取組についての発表を聞いた。高校については、このように中央農業高校と神奈川工業高校がモデル校として発信しているものの、あり方の報告としてあまり記載されていない。もう少し広く県民に発信していただけると良い。

(角田委員)

- ・アンケート結果について、もう少し説明いただきたい。また、魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートに関して、普通科と比較した結果等を説明いただきたい。

(事務局)

- ・資料6の魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート結果には、普通科のデータが含まれていない。
- ・平成27年度のデータではあるが、全日制の学年制普通科と単位制普通科について調査した結果によると、学年制普通科では、「とても満足している」が30.8%、「満足している」が29.5%、「概ね満足している」が27.0%、以下7.4%、4%であり、単位制普通科では、「とても満足している」が24.4%、「満足している」が29.3%、「概ね満足している」が29.8%になっている。

(事務局)

- ・資料5のうち、高校1年生のアンケートは、専門高校21校の高校1年生全員を対象として

おり、入学して1学期3ヶ月経過し、中学生の時の専門高校のイメージがどう変化しているかを捉える意図がある。

- ・質問1の志望理由については、「就職に有利だから」、「専門の勉強に興味があるから」という回答が多い。
- ・質問2の学校を希望するにあたり誰と相談したかについては、やはり「保護者・家族」、「担任の先生」が多いが、意外と「塾の先生」も多く、注意深く受け止めている。
- ・5ページ、6ページについては、中学校へのPR効果に関する設問になるが、多くの生徒が学校案内やホームページを見たり、学校説明会に参加したりしている。
- ・質問6の現在どう思っているかについては、「入学してよかった」という割合が大きい反面、「他校に行けばよかった」という回答も2桁台の部分がある。
- ・質問7の卒業後の進路については、学科ごとに特色が出ている。例えば、工業では就職が半分を超えているが、看護では当然ながら大学、短大、専門学校への進学が多い。
- ・資料5のうち、中学生、中学生保護者、中学校に対するアンケートの結果はまだ中間集計であるが、中学生に対するアンケートのうち、質問1の中学校卒業後の進路に関しては、「普通科に進む」が圧倒的に多く、「専門学科に進む」が8.9%と低い傾向が見られる。
- ・質問2の中学校卒業後の進路を決める際に何を重視するかについては、「自分の興味・関心や適性」に次いで、「高校卒業後の進学」が多く、進学傾向が強いことが中学校段階でも言える。
- ・質問3の進路を決める相談相手については、高校1年生のアンケートでも出てきたが、「塾や家庭教師の先生」が9.7%で約1割程度いることがわかる。
- ・質問4の高校を選ぶ際に重視する内容については、「学校の施設・設備や環境・立地条件・通学手段」が25.1%と一番多く、次いで「部活動、学校行事の状況」や「高校卒業後の大学・短大への進学状況」が多い。
- ・質問5の将来就きたい職業について考えているかについては、6割程度の生徒が将来に就きたい仕事についての意識を持っているという回答が得られている。
- ・質問6の将来就きたい職業については、「芸術、芸能やスポーツ関係の職業」が多く、進路に夢を持っている様子がうかがえる。次に「サービスの職業」、「教育の職業」、「医療や福祉や看護の職業」が多い傾向がある。
- ・資料5のうち、22ページ以降は中学生保護者に対するアンケートの結果であるが、そのうち質問1の中学校卒業後の進路については、「専門学科に進む」が中学生よりも少ないことが読み取れる。
- ・質問2の進路決定の際に保護者として何を重視するかについては、「自分の興味・関心や適正」が最も多く、次いで「高校卒業後の進学」が多く、中学生と同様の傾向が見られる。
- ・中学生、中学生保護者、中学校に対するアンケートの結果については、まだ途中経過であるので、送られてきた回答を順次追加して最終データをまとめていきたい。

(岡野高校教育課長)

- ・資料6の魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートは、ここ15年近く実施している。前回の改革計画の成果検証を目的に始められ、それ以来例年実施している。
- ・先述の平成27年度のアンケート結果の数値と、資料6の平成28年度のアンケート結果を、単純に比較はできないかもしれないが、普通科に比べ専門学科では卒業時の満足度が若干見

劣りする感がある。

- ・資料5のうち、高校1年生の質問6の現在どう思っているかという設問において、1年生の今の時点ですでに「他校に行けばよかった」という回答が一定程度いることを併せて考えると、やはり専門学科のさらなる充実にもっと力を入れていかなければならないと感じる。
- ・資料5の16ページ質問10と24ページ質問6では、中学生と保護者それぞれに対して、専門学科の取組で知らないことを質問しているが、卒業後に大学・短大進学ができることを知らない保護者が24.7%、約4分の1いる。また、普通科と同じように国・数・英等の共通教科の学習をしていることを知らない生徒が約4分の1いる。併せて考えると、まだ誤解されている部分があるので、やはり中学生・保護者への周知、広報をもっと行わなければならないと考える。

(熊坂委員)

- ・2ページの「1 専門高校が果たす役割」において、「職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに～育成することが重要であり」という記載から報告が始まっているのに対し、読み進んでいくと、7ページの「(2) 課題」の中で、「産業現場における働き方改革に関する課題の整理」という記載が出てきて、「(3) 対応」の中で、7ページの終わりから長時間労働に関する記載が始まり、8ページの最初に「働き方を考える」、「ワークルールに対する理解」を深めることが必要という記載が出てくる。「産業現場における働き方改革に関する課題の整理」等をどの程度記載するか注意しないと、報告しようとしていることの焦点がぼやけてしまうことが懸念される。
- ・8ページの「4 神奈川県専門高校の教育内容の方向性」の3点目に「県内の産業界からのニーズや産業構造に対応できる適正な専門学科の配置」という記載があるが、「産業界からのニーズ」とは具体的にどんなニーズなのか。例えば、「主体的に考え行動できる力を持った人材の育成といった産業界からのニーズ」等のように、少し説明を加えた方が良いのではないか。単なる「産業界からのニーズ」という表現は、安易に使わない方が良いのではないかという印象がある。

(事務局)

- ・中間まとめにおいて、ワークルールに関する課題も捉える必要があるとの意見を反映し、このような記載をしているが、本日いただいた意見も踏まえ記載の仕方を考えていきたい。
- ・「4 神奈川県専門高校の教育内容の方向性」については、本日いただいた意見を踏まえ、文言の表現の仕方も含めて記載内容を検討したい。

(2) 本県の専門高校における学習機会のあり方について

(松本委員)

- ・アンケート結果を見ると、中学生もその保護者も、大学進学ができないのではないかと不安に思っていたり、共通教科の勉強がおろそかになるのではないかと気にしていたりしていることが読み取れる。それに対し、進学への対応や共通教科の学習も充実していることについて、このあたりに書いておく必要があるのではないか。

(岡野高校教育課長)

- ・7ページの「3 高校教育へのニーズ及び課題と対応」の「(2) 課題」でアンケート結果を踏まえた課題等も抽出し、その対応を「(3) 対応」で記載する中で、今御指摘いただいた

た内容を織り込めるのではないかと考える。

- ・「Ⅱ 本県の専門高校における学習機会のあり方」は、多くが答申などの抜粋なので、特に、10ページの終わりから11ページのオリジナルの記載部分を御覧いただきたい。

(河野会長)

- ・コンソーシアムのことが、前回、前々回にも期待とともに随分取り上げられていたが、11ページの「3 神奈川県の特設専門高校における学習機会のあり方」の最初にあるコンソーシアムに関する記載が、それを反映したものと捉えている。

(二見委員)

- ・普通高校と専門高校とでは、学習機会に関する重きの置き方が明確に違うので、それを意識した表現をした方が、メリハリがつくのではないか。普通高校との差異を明確にして、「だから専門高校の学習機会ではこういうところに重きを置きたい」と示してはどうか。
- ・普通高校を否定するのではなく、目先が違うということを示せば良い。それを明確にして、専門高校では学習機会をこう広げるということを述べれば良いのではないか。専門高校は、役割やニーズが普通高校とは違うのだから、専門高校で身につけるべきことが深まるような学習機会を提供してあげなくてはならないと考えるべきだろう。

(岡野高校教育課長)

- ・専門高校に進むことによるアドバンテージについて、もう少し明確に示したいということを感じている。

(河野会長)

- ・8ページの「4 神奈川県の特設専門高校の教育内容の方向性」と連動して、次の「Ⅱ 本県の専門高校における学習機会のあり方」につながっていく必要がある。コンソーシアムについて、ここでもう少し書き込んだ方がわかりやすいのではないか。

(3) 本県のこれからの専門高校のあり方について

(馬鳥委員)

- ・教員の人材育成は、人材確保と一体であると考えている。8ページの上の方に「一方、教職員について、団塊の世代が大量退職を迎えていることから、人材の確保や若手教職員への実践的な技術・技能を継承していく必要がある」と記載しているが、18ページの「(3) 今後の教員の人材育成のあり方」にも人材確保の記載があった方が良い。

(奥田委員)

- ・教える力を持つ教員の採用も必要だが、社会の変化が激しい中で、専門的な部分を外部の企業等の力を借りながら考えていくという視点を、少し書いても良いのではないか。

(岡野高校教育課長)

- ・18ページの下から3行目に、コンソーシアムの活用が記載されている。今の意見は、直接生徒に教えるということも視野に入れた連携ということと思うが、検討していきたい。

(熊坂委員)

- ・学校の状況を見て感じていることだが、学校の中だけが研修の場ではなく、校内研修及び校外研修を通して育成することを明確に打ち出して欲しい。

(4) 全体的な内容について

(馬島委員)

- ・ 県立高校改革の基本的な理念は、スチューデント・ファーストを重視していくということであるが、7ページの「4 神奈川県の特設専門高校の教育内容の方向性」の3点目において「県内の産業界からのニーズ」が前面に出ている印象を受ける。産業界だけがピックアップされているが、県立高校改革の理念としてのスチューデント・ファーストを位置付けていただきたい。

(河野会長)

- ・ 同じ箇所「適正な専門学科の配置」という記載が気になる。「適正」という言葉が、産業界に対するものに限定されているように感じる。

(岡野高校教育課長)

- ・ 例えば、工業を例にとると、工業は県内幅広く均一に分布しているのに対し、県央地区に工業高校がない。以前この地域には相模台工業という学校があったが、前回の改革計画で再編統合して総合産業科の神奈川総合産業高校という学校になり、工業高校ではなくなった。様々な産業の分布の具合と今の県立高校の配置を検証することを一つの課題と捉え、適正な学科配置という表現を使っている。
- ・ 将来的にはこのようなことも踏まえて考えていかねばならないが、今回の県産審の審議の中でそこまでの結論に至るのは厳しいと捉えている。昨年からはじめた県立高校改革実施計画は12年間ある。その中で、様々なニーズや産業分布の状況に対して、県立高校の学科配置が合っているかどうか、検証しながら課題を解決していかねばならないだろうと考えている。例えば、具体的には建設業界から要望の形で建設学科新設の要望書が正式に出されており、端的に言うとも横須賀地区には建設系学科がない。ただ、今年度末までにすべてを解決するのは困難だろうと思っている。そういうニュアンスをこめて、次年度以降の県産審につなげられるような記述も必要かもしれないということである。

(目迫委員)

- ・ 産業界から要望書が出ていることは承知しているが、もし近くに建設系学科がなければ、遠い近いではなく他の学校に人材を求めざるを得ないと、長年人事に携わってきた中で思っている。もちろん、地域に学校があることがベストではあるが、全部産業界のことばかりを聞かなくても良いのではないか。

(二見委員)

- ・ 例えば、将来大工になりたいけれどもはるばる県央まで行かねばならないような場合、横須賀から県央だったら2時間かかる。そういうニーズがあるのであれば、スチューデント・ファーストの観点から、そのような適正配置の考え方というものもあるのではないか。

(岡野高校教育課長)

- ・ 例えば、建設業を志したいという生徒が横須賀にいた時に、横須賀にあれば行ったがなければ磯子工業、でも交通の便が悪い等の事情でそこまで行かぬなら普通科高校に行こう、そこで工業の道は諦めてしまう、ということもありうると思う。スチューデント・ファーストの観点から、適正配置も考えねばならないし、一方で産業界のニーズを全く無視するわけにもいかない。そういった兼ね合いは確かに難しい。

(河野会長)

- ・ 7 ページの「4 神奈川県の特設高校の教育内容の方向性」の 2 点目については、アンケートから読み取れる中学生・保護者の不安を考慮し、特設高校の現実の役割として、産業界と直結する部分と大学進学ができる部分があるということ、イメージしているのか。

(岡野高校教育課長)

- ・ 誤解を生んでいる部分に対し、よりわかりやすい教育課程が必要と考えている。中学校にとっては、やはり高校の出口が大事になる。学科名を見ただけで出口がわかりやすくなるように配慮することや、例えば進学できるコースがあることを分かりやすくすること等、わかりやすい教育課程にしていくことも考えねばならないと捉えている。

(角田委員)

- ・ 中学生や保護者にとって「希望を叶える」等の表現がいいのではないかと。

(岡野高校教育課長)

- ・ 進路が多様化しているので、その進路実現に向けた教育課程をきちんとつくっていく。新学習指導要領のキーワードとして「開かれた教育課程」があるが、そういった点も含め、この部分の記載を検討する。

(角田委員)

- ・ 家庭に関する学科について、現実的にどんな生活科学科ができるのか、特色を教えてください。

(事務局)

- ・ 現在、教育課程を検討中の段階であり確定ではないが、食に関するコースと保育・福祉に関するコースの 2 系統を想定している。高校で取れる資格が限られているため、進学して栄養士、保育士、調理師、福祉の内容を深められる学習ができる教育課程にすることを検討している。また、農業科との併置を生かした学習内容の実現を検討している。
- ・ 調理師養成に関しては、厚生労働省による免許、資格を取るための規定が厳しいこともあり、現在のところは考えていない。

(河野会長)

- ・ 二俣川看護と似たような考え方で捉えてよいのか。

(岡野高校教育課長)

- ・ 二俣川看護は、看護師になりたい生徒は上級学校を目ざすこととしている。吉田島については、もう少し進路先は幅広いと考えている。興味・関心があり、できたら上級学校に行くかもしれないが、資格取得については特に考えていない生徒もいるかもしれない。二俣川看護よりは進学に特化したイメージではないと考える。

(菊地原委員)

- ・ 中学生の特設高校への選択が少ない理由は、やはりその先が分からないという点もあると思う。特設高校の教育課程は、中学生・保護者には理解し難いことが多い。総合高校でも、教育課程を理解していたかという点、実際入ったら「違う」という例もあるのだが。やはり、生徒自身の「夢」を実現するという部分が、中学校の現場としては一番の肝となる。学校紹介のパンフを見ても、学科の構成がよく分かるものはあっても、進路先一覧が小さいものもある。私立のパンフを見ると、この大学にいける、この会社に入れるということが前面に出ている。そういった点も全く考慮しなくていいということではなく、7 ページの「4 神奈

川県の専門高校の教育内容の方向性」の2点目の表現を考えて欲しい。

(廣瀬委員)

- ・大学進学のことを前面に考えると、専門高校である必要性がなくなるのではないかと。全日制普通科高校と何が違うのか、どう差別化していくのかということが、大きなテーマとなるのではないかと。高校を選択する際、ほとんどの子どもたちは、自分が何になりたいのか分からない中で、学校をどう選んでいくのかというのが分からない。そのような中で、専門高校は、将来の職業を考える機会を与えられるということが特徴ではないかと思う。
- ・神奈川県では農業高校が3校から5校に増える。これは他県にはない。注目されているうちに、専門高校として特徴ある方向性を見せていくべきではないか。
- ・スチューデント・ファーストを掲げているものの、その学校で何が学べるのか明確になっていないから、不安を感じるのではないだろうか。教員だけで賄おうとすると難しいので、地域と連携してやっていけば良いと思う。
- ・御承知のとおり「専門職大学」という、高等教育の複線化の取組が始まっている。中等教育でも、複線化を視野に入れて良いのではないかと。多様なニーズの中、子どもたちにどの道を選ばせるのかについて、地域産業と地域住民と学校とで三位一体で取り組めば解決できるのではないかと。是非これからの農業高校の方向性もお伺いしたい。

(事務局)

- ・今の農業教育では学科名や教育内容がわかりにくい部分もある。やはり、何をすべきか明確に示していくことも大事であると思う。農業に関する学科について、そのような視点で専門部会で審議されているが、今まで農業に関しては学科会議もあまり行われずにきた。これからの農業とはどうあるべきかを含め、何をやっていくべきかについて、より具体としてわかりやすくしていくという視点でしっかり考えていきたい。

(熊坂委員)

- ・福祉科のPRの際、2025年問題の話の冒頭へ持ってきて、これから求められる人材、分野であり、AIにとって代われない分野であるというところから話に入るようにしている。農業科や家庭科に関しても、時代が求めることをもう少し冒頭へ持ってきて書き出した方が、明確な方向性が打ち出せるのではないかと。

(菊地原委員)

- ・神奈川県はこうであるというものを、前面に打ち出していきたい。他県が募集案内を神奈川県の中学校長会に送ってくる状況であり、他県も専門高校は苦しい様子であるが、神奈川県はこうだ、というところを示して欲しい。

(河野会長)

- ・私どもの大学で、工業高校等の出身者が結構おり、取組の姿勢が良く、明らかに普通高校から来た学生たちより良い。そういう面でも、専門高校から大学へ進学することはかなりプラスが多いと感じる。専門高校で学んだ良さを持って大学に進学することが現実としてある。そういう面から、最初から進学を考えている生徒も、すぐ産業界に進むつもりでいる生徒も、共存できるのではないかと実感がある。

(二見委員)

- ・資料6のアンケート結果を見ると、農業高校と水産高校では生徒があまり満足していない様子が見取れる。これについては、どう分析しているか。教育の質が悪いから不満なのか、

学ぶ内容が実態に合わないから不満足なのか、勉強が分からないから不満足なのか。様々な側面があると思うが、満足していないという数値が大きめなので気になる。そこが、改革につながる部分ではないか。

(事務局)

- ・これから、アンケート結果のデータをもとに検証していくところである。中学生や高校1年生のデータをもとに、このような結果になった要因を分析していかねばならないと思っている。
- ・水産科については、15 ページにも課題として挙げているが、産業界や中学生のニーズが、今の水産高校の学科構成、教育内容とマッチしていないところがあると捉えている。具体的には、水産高校の卒業生や在校生から、資格取得をしたい、もう少し実習が多い方が良いというようなアンケート調査の結果を得ているので、そういうところが不満足という数字に出ているのだろうと考えている。

(河野会長)

- ・専門高校では、これを学びたいから来たという生徒と、どこも行けないから来たという生徒とが、二極分化している印象がある。意欲をもって来た生徒にとっては、少し物足りないと感じる生徒もいると思う。不満足というのは優秀な生徒かもしれない。

(二見委員)

- ・二極分化した生徒たちに何を身につけさせるか、適性を見ながら個別な教育も必要かもしれないと感じる。

(角田委員)

- ・自分自身が成長したと実感できるような学びが、19 ページに記載のある主体的・対話的で深い学びであると捉えているが、専門教育における主体的・対話的で深い学びをまだ取材したことがない。専門教育では、主体的・対話的で深い学びへの授業改善について、どう取り組んでいるのか。専門教育はもともと実習で実現できていると済まされているのではないか。

(事務局)

- ・商業では、資格を取得するために知識を植えていくという例があったが、例えば生徒と一緒に考えさせながら答えを導き出したり、財務諸表をいくつか用意してどこの企業か推測したり、生徒と話し合わせる中で対話力をつけたりする等、様々な工夫をして取り組んでいる。これは、他学科でも共通して取り組んでいる。

(後藤委員)

- ・工業高校の例では、実習や実験では、主体的・対話的で、自分たちで考えながら取り組むことが多いが、座学の授業では、自分の経験したものづくりの実習と座学の授業を関連させ、理論としてこういうことがあったからこういう結果になったというような、理論と経験をつなげさせていくことが深い学びにつながっていくのではないかと捉えている。
- ・怪我させないという観点から、考えさせるより体に染み付けさせるという内容に重きを置いた昔ながらの教育から、なぜそうなのかと考えさせる教育への改善が、今不足しているところである。実験や実習の中で、生徒たち同士で自然に役割が分散化されるようなことができているが、深い学びにつなげる考えさせる学習活動と体に染み付けさせる内容のバランスをとることが、今後求められてくると思っている。

(5) 最後に

(目迫委員)

- ・生徒が、自分たちで取り組んでいることを他の人に見せたり、発表したりする機会は大事である。例えば、ものづくりコンテストや産業教育フェア等の場は必要であるということを意識しておきたい。

(河野会長)

- ・同感である。コンソーシアムについても、この審議会では重要な位置付けとして捉え、期待が大きいということを重ねて申し上げておきたい。
- ・本日いただいた意見を踏まえ、専門部会で調査研究願いたい。以上で審議を終了する。

9 事務連絡

◇今後のスケジュール